

2020 年の内外ガス情勢の展望と課題

<報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループマネージャー
研究主幹 橋本 裕

2020 年の LNG 価格と国際 LNG 需給

1. 2020 年の日本の LNG 平均輸入価格は 2019 年の平均 10 ドル（100 万 Btu 当たり）から、8.8 - 9.0 ドルに低下すると予測する。2020 年平均 5.5 - 6 ドルと見込む北東アジアスポット LNG 価格および、原油輸入価格 66 ドル（バレル当たり）・契約価格中の原油価格連動率の低下を織り込む。
2. 2020 年の世界の LNG 需要は、2019 年推計 3.5 億トンから 6%増加して 3.7 億トン程度となる。これに対して供給能力は、稼働率の若干の低下を考慮しても 3.8 億トン以上となり、供給力が需要を超過する状況が続く。

世界の LNG・天然ガスの市場動向

3. 2019 年の世界の LNG 市場は、大幅な供給力増加に牽引され、10%を超える成長見込みだが、北東アジア 4 国・地域合計の LNG 輸入量は、前年同期比ほぼ横這いで、世界市場中のシェアが 2018 年 62%から、55%に低下した。
4. 同年に急速に拡大した LNG 供給の多くは、欧州に向かった。スポット LNG 価格が低迷し、北東アジアで長期契約価格との乖離が過去最大となった。欧州 LNG 輸入増加、米国産 LNG 輸出増加に伴う欧米ガスハブ価格の影響力拡大が加わり、LNG 価格のグローバル相互作用が深まっている。
5. OECD 諸国 + 中国・インド（世界需要の過半を占める）の天然ガス需要は、2019 年第 1 - 3 四半期は、前年同期比 660 億 m³（4%）増となり、OECD 米州・中国が需要増を牽引、また第 2 四半期以降は欧州も増加に復帰した。
6. 2019 年 1 - 9 月の世界の LNG 輸入は前年比 12%増の 2.6 億トンとなった。中国で 16%増加、欧州は 83%増加して 6000 万トンを超えた。東南アジア・南アジア新興輸入国の LNG 輸入が近年増加しており、2019 年は第 3 四半期までに、それぞれ 25%・170 万トン、65%・340 万トン増加した。

主要国動向

7. LNG 供給面では、2019 年 1 - 9 月期、豪州、米国が各 800 万トン以上、ロシアが 700 万トン以上輸出を増加した。豪州は世界最大の輸出国カタールに

- 肉薄（年間換算 7700 万トン相当）、ロシアは前年同期比 50%以上増加した。エジプト、アルジェリアも各々230%、25%程度増加した。
8. 米国の LNG 輸出は、2019 年 1 - 10 月、前年同期比 65%増の 2928 万トンとなり、既に稼働中の日本向け 3 プロジェクトに加え、新規 LNG 輸出設備の稼働開始が続いている。稼働中容量は、2019 年末で年間 4800 万トン、2020 年末 6600 万トンが見込まれる。さらに最終投資決定 (FID) 済み容量を加えれば年間 1 億トン分を超えるなど、今後も容量拡大が見込まれる。
 9. 世界最大の LNG 輸出国ポジションに迫る豪州は、2019 年 1 - 10 月、前年同期比 14%増の 6400 万トンを輸出した。また、次世代プロジェクトに向け、事業再編・既存 LNG 設備への新たな原料ガス調達等の動きも進んでいる。一方、東部では複数の LNG 輸入プロジェクトも存在する。
 10. ロシアの Arctic LNG 2 が、日本企業の参加も得て、2023 年稼働開始に向け前進している。中国向け・トルコ向け新規パイプラインが 2019 年の開通を見込むが、ドイツ向け Nord Stream 2 の稼働開始は 2020 年にずれ込んだ。独立系ガス生産企業 Novatek が主導する Yamal LNG は、過去欧州市場向けロシア産ガス輸出を独占していた Gazprom のガスと競争している。
 11. 中国の 2019 年 1 - 10 月の天然ガス生産、消費は、いずれも前年同期比 10%増加したが、増加率としては鈍化した。LNG 輸入は 1 - 10 月、前年同期比 609 万トン（15%）増加して 4770 万トンとなった。
 12. 欧州の LNG 輸入増加には、豊富な天然ガス地下貯蔵設備が貢献している。10 月末時点での欧州地下貯蔵在庫は LNG 換算 7100 万トン程度、前年同月比で 870 万トン程度（14%）増加、容量に対する充填率が 98%となり、前年同期の 87%を大きく上回り、かつ統計上過去最高の充填率となった。

日本の国内ガス市場動向

13. 日本の都市ガス小売の供給事業者転換件数は、過去 1 年間に倍増、同転換割合は全国平均 11%、特に関東地域が 140 万件以上・14%台となった。これに対して、電力小売での転換割合は、全国平均 22%、関東で 30%となっており、都市ガス企業・電力企業間の相互参入競争が激化している。

プロジェクト開発と日本の貢献

14. 2019 年は米国で 3 件、モザンビーク、ロシアで各 1 件の、合計容量年間 6300 万トン分の投資決定が発表され、投資決定を控える案件が多数残されている。
15. 世界的にガス資源ポテンシャルは大きく、LNG 供給力拡大が期待される。今後の LNG 供給の柔軟性を有効活用するため、流通側でもインフラストラクチャー（LNG 積替基地、FSRU 基地、バンカリング拠点など）への投資拡大が必要であり、日本企業、あるいは官民共同による貢献への期待は大きい。

以上